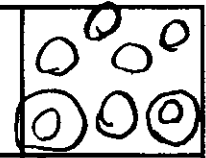


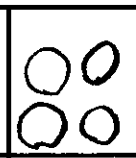
出句用紙(番号)

作者名

村松



この声か恋の声とは牛蛙



行者ゆく山道昏し蝮草

亀が亀搔き分けて来る夏が来る

みささき 御陵の姫を慕ひて亀鳴けり

○ 万年の甲羅干したり青山嵐

南柯句会

ひや 匠

多景

~やうに ~まじりに の二つ

~の二つ ~まじり

作者名 中野花山

びびびびげぎぎよっ滞^{とどま}っている時鳥^{ほととぎす}

ちよろけたる一年生の清明

金柑の縦に列^{あした}けたる日永かな

青嵐吹きに吹きたる日^{あした}長かな

朝焼けに隠されていゝる雲の峰

三田山阿彌の会 南柯句会

Copyright © 2010 by the author. All rights reserved.

出句用紙(番号5)

作者名 鮫島しゅうん

○ 藤揺れて耳成山と畝傍山

青嵐 早くも靴の擦り減りぬ

○ ○ 限定を噛みしむる列 よもぎ餅

煌^{キラ}めいて帆の見え隠れ 一豆の花

あたら^{あたら}よ 可惜夜の席そのままに花の散り

南柯句会

出句用紙(番号4)

5/10

作者名 (三ツ木) 道夫

青山嵐や葦の波を鯉魚夢む

青山嵐や途切れとぎれの戈鳥の声

青時雨風の足音 訥々と

実桜の滲むや海の世監に似て

花いばら山岩間の流れ刻一刻

南柯句会

出句用紙(番号 5)

作者名 関洋子

○	青嵐弟庇ふガキ大将 <small>かほ</small>
○ ○○○	木目込みの兜飾られ和む句座 <small>なぶと</small> <small>やじ</small>
○	万緑に飛び込む覚悟自き靴 <small>し</small> <small>かつ</small> <small>じん</small>
	陽火火や砂のお城の山崩れかけ <small>やげ</small> <small>ろふ</small>

南柯句会

出句用紙(番号 6)

作者名 ニ 罪

○	○○○ ^秘	○○	○	
青山嵐記憶の孔 <small>あな</small> が空いている	土佐弁の溢 <small>あふ</small> るる詩集 青山嵐	やみくもに走る 青山 青山嵐	「いめん」といふ所まで歩こう 青山嵐	風神を道がれとして 青山嵐

南柯句会

出句用紙(番号 7)

作者名 山崎 たか

○	のどかなより 摘み取るとミニトつ 朝のキス
○	二水でもか 太平洋へ は目た神
○○	田水 張るキラキラと 苗を待つ
	杉の木の木霊 伝える 青い嵐
○○	ト田より 慣に 満水の 中火

南柯句会

出句用紙(番号8)

作者名 山下疾風

○	船立 <small>ふねだち</small> や潮 <small>うしほ</small> のけがる青嵐
◎	伊賀甲賀真向 <small>まっこう</small> 斬りが青嵐
	涼風やボトルシップの帆 <small>み</small> ふくらむ
	航跡にうっろふ夏や空 <small>み</small> に曳く
○	風薫る序 <small>いひま</small> にひとつの躰 <small>み</small> かな

出句用紙(番号) 〇

作者名 平華

○	こぶし咲く今日も定時にバスが来る
○○○	翔ぶつばめ横目で覗む仁王像
○○	建前とうねさ話の春茶会
○ ◎	しんぼう七度の春日を通り過ぎ
○	風神の藤で小踊り五月山風

南柯句会

出句用紙(番号10)

作者名 近藤和卓

○○○○	○○○	○	○○	○○ ^天
草を喰む山羊の一徹 <small>いちげつ</small> 自 <small>みづか</small> 青山嵐	青山風ショートカットのりセエニヌ	天平の薨 <small>あが</small> 千筋 <small>せんすぢ</small> 清和 <small>せいわ</small> なり	風薫るカテドラルへの石畳	風光る雇声やがて歌となる

南柯句会

出句用紙 11

作者名 藤子工三

◎◎ ◎◎		○	○	兼
寒村の空に孤高のしいのほり	汲み立ての灰かに甘き新茶かな	新緑の海に浮くごと通天橋	たんじりの曳き手憩ふや若葉風	風見鶏の唸り続くや青山風

出句用紙(番号12)

作者名 上田秋霜

特
〇
〇
〇

窯元は駅より三里夏つばめ

六甲を有馬に下る青山嵐

〇
主幹

湯の町の空に百本鯉のぼり

〇

母の日や母の一句を音読す

〇

ありつたけ口を開きて燕の子

南柯句会

出句用紙(番号13)

作者名上 窈泰干

<p style="text-align: center;">☆</p> <p style="text-align: center;">(特)</p>	<p style="text-align: center;">○</p>			<p style="text-align: center;">○</p>
<p>無人駅ペニキ塗りかえ夏に入ろ</p>	<p>釣鐘や僧のひとつき青山嵐</p>	<p>青山嵐石段ゆけば竹林寺</p>	<p>白靴の汚れが見ゆる寺巡り</p>	<p>夏帽子そばに土産の土佐日記</p>

南柯句会

作者名

へちま

◎ 高窓に切り抜く楡にんの若葉色

○ 青嵐闇に揺るかぬアニタレヌ

春驟雨滲むアーチヤ明石橋

◎◎ 早乙女の降り立ち揺らぐ水鏡

颯爽と赤きミニニスカ夏立ちぬ

6/14

出句用紙(番号15)

作者名

山本わこ

地◎◎	◎◎	◎		◎◎◎◎
蓮の花母はわたしの胎内に	麦の風乗り継ぎ待ちの汽車土瓶	町中の主婦の飼うヤギ草若葉	反対の足から歩む青月山嵐	きっかけは新玉菫心のツナサラダ

南柯句会

16 出句用紙・作者名・宮本こぼ

9 青嵐せいらんを乗せて列車はカーブする

09 陶窯の火の色たけり夏に入る

整然と選手行進夏はじまる

藤揺れて谿たにの静寂深まりぬ

9 緑の夜疲弊を乗せて路線バス

出句用紙・作者名・富野香衣

有り丈の空を頬張り鯉幟

妻でなく母でもなくて花衣

春雷や鉛の空の堕ちて夜

若沖の著き刷毛目や亀鳴けり

青嵐空の轍を解きにけり

出句用紙

(番号 18)

作者名..(安藤) 英彦

焼酎と寮歌となれば肩を組み

何食はぬ顔で棒立つ葱坊主

ねぎ

靴踊るふの字ほの字のこどもの日

湛水に掠む燕の一筆書

たんすい

かす

葉擦れ合ふ静寂妖しき青嵐

ず

しじま

あや

兼題句

出句用紙(番号 19)

作者名 福田洗刃

○
家蜘蛛や畳寝転び書に沈む

○○
芍薬のほどける頃を待ちみたり

○
流木に亀の親子の甲羅干し

○
青い風揺るる葉陰やトタン壁

○
茉莉花や遠くの郷の朝に入る

出句用紙(番号 20)

作者名 真一

	<p>子規句碑に青梅<small>あうめ</small>落ちたる借梨園</p>
	<p>宮の松神の気配か青嵐</p>
	<p>嵐山竹林ざわわ青嵐</p>
	<p>接骨木<small>つばき</small>の花や病の父想ふ</p>
00	<p>素人の野球解説も笑ふ</p>

出句用紙(番号 21)

作者名 白井桃紅

○	夏立つや猫の目線の先を追ふ
	霽 <small>しや</small> 晴れて青葉若葉の山となる
	犬友の集う公園夏立ちぬ
	パンケーキ添へる木苺ソースなど
○	青山風長き祈りの老夫婦

南柯句会

出句用紙(番号 22)

作者名

文蔵

母の日やみづうみ深くしいんとて

稚心のまんま歩いてゐる鯉のぼり

大神の銀竜草の巫女たちよ

苺花へ傾ぐピアスの真白かな

無人の観覧車青嵐の金属音

南柯句会

出句用紙(番号 23)

作者名 一途

	<p>水遣りの飛沫<small>しぶき</small>に斑<small>まだら</small>白丁<small>はくちやうが</small>花</p>
	<p>こんな日は誰と歩<small>あゆ</small>ニラ<small>にら</small>夏隣<small>なつり</small></p>
	<p>漕<small>こ</small>が急<small>いそ</small>ぐ少年の北<small>きた</small>月に青<small>あお</small>山<small>やま</small>嵐<small>あらし</small></p>
000 0	<p>母の本<small>ほん</small>なるる夕暮<small>ゆふぐ</small>れ<small>れ</small>豆<small>まめ</small>二<small>に</small>はん</p>
	<p>くたばつてしめえと自分も回<small>まわ</small>迷<small>まよ</small>の忍<small>しの</small></p>

南柯句会

出句用紙(番号 24)

作者名

南柯

○
水面の流るる雲に早苗揺る

○
葱坊主登校の列交じりたし

揚羽蝶佇お小さき水溜り

○
山々の裏側の藤花盛り

御神山のふもとを流る春月山風

南柯句会

R.8
5/10
南柯